

# 知財人財育成研究分科会セッション

## ◆ 「“育つ側”から見た知財人財育成 ～2012年春季シンポジウムのフォローアップ討議～」 ◆

### ■ セッションメンバー（敬称略）

★挨拶 井口泰孝 日本知財学会理事(本分科会担当)

★パネラー:(五十音順)

杉光一成 金沢工業大学 教授/知的財産教育協会専務理事

小野 曜 野村総合研究所 法務・知的財産部 主任/弁理士

高橋恵利花 パナソニック株式会社エコソリューションズ社 知的財産グループ/弁理士

吉原拓也 日本電気株式会社技術・知的財産統括本部 シニアマネージャー/工学博士

★モデレータ 本分科会主査

妹尾堅一郎(NPO 法人産学連携推進機構理事長、一橋大学客員教授)

### ■ セッション趣旨

2012年6月22日(金)、当学会の創立10周年を記念して「日本の未来を担う知財人財育成」をテーマに、次の趣旨に基づき、春季シンポジウムが開催されました。

日本の知財分野の人材育成については、初等中等教育から大学、大学院、さらには社会人、専門家を対象としたものまで幅広く行われてきた。特に2006年に政府がまとめた知的財産人材育成総合戦略によって、その体系化が図られたものである。しかしその後の知財戦略のグローバル化等の環境変化によって、知財人材育成のあり方も見直しが行われており、直近の2012年には知的財産戦略事務局により知財人財育成プランがまとめられている。このような契機に、日本の知財人材の育成に関わる全体像を、人材育成に従事する育成者と、被育成者の立場の2つの視点から俯瞰し、その取り組みの課題を明らかにし、将来を展望することを試みる。

また、学会サイトは、次のように当日の様態を伝えています。

基調講演では、内閣知財戦略事務局の内山事務局長をお招きし、「知的財産推進計画2012と知財人財育成プラン」についてご講演いただきました。パネル討論Ⅰでは、「知財の教育者は誰が担うか、育成者を如何に育てるか？」というタイトルで、教育者および人材育成者の視点から議論を行いました。パネル討論Ⅱでは、「被育成者の立場からみた知財人材育成」と題し、被育成者の視点から議論を行いました。企業を中心に、大学教育機関、官庁・団体組織、弁理士・弁護士事務所より151人の方にご参加頂き盛況のうちに幕を閉じました。

# 知財人財育成研究分科会セッション

## ◆ 「“育つ側”から見た知財人財育成 ～2012年春季シンポジウムのフォローアップ討議～」 ◆

### ★ 「春のパネルのフォローアップとして」

パネル討論Ⅱの「被育成者の立場からみた知財人材育成」は極めて好評で、参加者からは「もっと話を聞きたい」、参加できなかった方々からは「好評と聞いた。他の機会を設定できないか」といった声が、知財人財育成研究分科会に数多く寄せられました。そこで今回は、そのフォローアップセッションを行うことにしました。

前回パネルにご参加いただいたのにもかかわらず、残念ながら、以下のお三方はご都合で今セッションには参加できませんでした。

鮫島正洋氏（弁護士/弁理士）

地曳慶一氏（ユニチャーム株式会社）

高橋真木子氏（理化学研究所）

しかし、それ以外の方は全て登場いただけることになりました。また、今回はモデレータをおつとめいただいた杉光一成先生には、今回パネリストとしてご参加いただくことになりました。他方、モデレータは、前回、発案者にもかかわらず事情で参加できなかった、当分科会主査の妹尾が担当させていただきます。

### ★ 「育つ側」から見た知財人財育成 前回の議論を進展させます。

ただし、今回は前回の再現ではありません。さらに議論を進展させたいと考えています。その想いをセッションタイトルに反映しました。「育成される側」ではなく、「育つ側」です。なぜでしょうか。

従来の人財育成論議は基本的に「育成する側」からの議論が主たるものです。そのために、ついつい議論が「育成される側」の観点を欠かしてしまう傾向になりがちです。春季シンポジウムは、そのことから「被育成者」という概念でとらえようとした。

しかしながら、今回は、それをさらに進めようと考えています。「被育成者」ではなく、また「育成される側」でもなく、「育つ側」としたのです。この点に、お気づきいただけましたでしょうか。

なぜならば、社会人の人財育成について議論するわけですから、自ら考え・自ら行動する主体的な人財に育つことは、自分自身を自ら育てようとする人が基本であることが肝要です。前回のシンポジウムでは、その点に議論が向かったと言えます。

受動的な人を育てることは、社会人の人財育成としては二の次ではないでしょうか。「落ちこぼれ対策」より「吹きこぼれ対策」が優先されるはずですが、自らを育てようとする「育つ側」は、自ら育つためにどのような努力をしているのか、その時、どのような支援を望むのか、あるいはどのような指導が適切なのか……。そこで今回のセッションのタイトルは、「育成される側」という受動的なものではなく、「育つ側」という主体的・能動的な概念でとらえることを明示したわけです。

自ら考え、自らを鍛え育てている方々にパネラーをお願いしてあります。力強く積極的に、しかしながらそれ故悩みも多く抱えている、自らを育てようとする方々の議論にご期待ください。本セッションを通じて、知財人財育成に関わる方々に気づき・学び・考える機会を持っていただければと願う次第です。皆様のご参加をお待ちしています。

文責：本分科会主査・妹尾堅一郎